

## 第44回全国スポーツ少年団軟式野球交流大会 香取市大会 要綱

- 1 趣旨  
本大会を通じて、少年少女の、スポーツを愛し、楽しみ、相互が協調・調和できる心と、総合的な運動による身体の健全な育成を図り、各チームの伸展に寄与すると共に、軟式野球の普及に努める。
  - 2 主催 香取市スポーツ少年団
  - 3 後援 香取市体育協会
  - 4 協力 特定非営利活動法人水郷軟式少年野球協会
  - 5 期日 令和4年4月17日(日)、23日(土)  
予備日 24日(日)、29日(金)  
30日(土)、雨天順延
  - 6 集合  
受付時間 午前7時30分
  - 7 集合場所 香取市与田浦運動広場
  - 8 新型コロナウィルス対策  
大会に参加する選手、指導者及び父母等の検温・手指消毒を実施する。
  - 9 試合開始 午前9時00分
  - 10 試合実施球場 香取市与田浦運動広場A  
// D
  - 11 参加規定
    - (1) 参加資格  
前年度登録または更新し、2022年4月15日迄に千葉県スポーツ少年団登録の団員(1~6年)で組織され2名以上の有資格指導者を有し、当該年度スポーツ安全保険に加入済みの単位団。
    - (2) チーム編成  
代表・監督・コーチ2名・スコアラー(成人指導者)の5名、選手10名以上20名以内とする。
  - 12 抽選会
    - (1) 4月10日(土) 午後7時00分 佐原中央公民館
    - (2) 試合組合せの抽選の順は、抽選会受付の順とする。
  - 13 競技規則
    - (1) 試合方法 トーナメント方式
    - (2) 競技規則 「2022年度公認野球規則」、全日本軟式野球連盟競技者必携記載の「少年野球に関する事項」及び「千葉県スポーツ少年団軟式野球専門部大会特別規則」を適用する。
    - (3) 使用球 全日本軟式野球連盟公認球「J号球」を使用する。
  - 14 表彰 優勝 賞状・優勝旗・優勝杯・メダル  
千葉県大会出場権  
準優勝 賞状・準優勝杯・メダル  
第3位 賞状・楯・メダル
  - 15 選手の健康管理  
選手の健康管理上、投手を2名以上育成する。
  - 16 審判員
    - (1) 各チーム2名の審判員を帯同すること。(1名は球審経験者であること。)
    - (2) 審判担当表により、シート番号の若いチームが球審及び2塁、他チームは1塁及び3塁を担当する。
  - 17 記録員
    - (1) 各チーム1名の記録員を帯同する。
    - (2) 自チームの試合時、対戦相手チームと共同で得点及び試合経過を記録する。
  - 18 合同チーム参加について
    - (1) 単独チーム団員が3年生以上で10名以下の場合に限る。
    - (2) 大会登録は、主体となるチームより大会事務局に登録名簿を提出する。
  - (3) ユニフォームは、原則統一とする。但し、大会申込時に「申し出」があった場合は、それぞれのチームのユニフォーム【上下・帽子・ストッキング・スパイク】でも可とする場合がある。但し、背番号については、統一とする。
  - 19 諸注意
    - (1) 大会中の怪我等事故については、各チームで責任を負うものとする。
    - (2) 試合の進行については、球場責任者及び球場責任審判員の指示に従うこと。
  - 20 その他  
止むを得ず不参加となる場合は、早急に事務局へ連絡すること。
  - 21 大会事務局  
特定非営利活動法人 水郷軟式少年野球協会  
事務局長 秋山昭次  
〒285-0861 佐倉市臼井田1054-1  
Tel: 090-2228-8283 Fax: 043-461-3647
- 千葉県スポーツ少年団軟式野球交流大会 大会競技規則
- 【大会競技規則】
- 1, この大会は、2022年度「公認野球規則」並びに全日本軟式野球連盟「競技者必携書」及び「大会特別規則」を適用する。
- 【大会特別規則】
- (出場資格及びチーム構成)
- 1, 大会の出場資格は、公益財団法人千葉県スポーツ協会千葉県スポーツ少年団の登録団員であり最終日の試合まで参加できるチームでなければならない。
  - 2, チーム構成は、成人者による代表者、監督、コーチ(2名以内)、スコアラーと選手(小学生)10名以上20名以内とし、認定有資格者が2名以上(今年度初登録は除く)含まれていなければならない。
  - 3, 出場チームは、地区予選も含め選手を他のチームから補強及びその他の不正を行うことを禁止する。
  - 4, ~~町・村に登録チームが1チームしかなく、尚且つ、登録団員が小学校3年生以上で10名に満たない場合には、同じ条件の近隣の町・村のチームと合同チームを構成することができる。~~
- (服装・用具)
- 1, 同一チームの監督、コーチ、選手の服装は、スパイクを除いて同一のユニフォームを着用すること。但し、代表者、スコアラーの服装は、帽子に限り同一のものを着帽し、靴は運動靴を着用する。代表者、スコアラーは背番号のない同一ユニフォームでもよい。
  - 2, 背番号は、監督30番、コーチ28番・29番、主将10番、選手は0番から27番までとする。
  - 3, スパイクシューズは金属製のものは使用できない。
  - 4, ヘルメットは、「JSBB」マーク入りで両側にイヤークラップの付いたものを用意し、打者、次打者、走者、ランナー、コーチ、ボールボーイ、ボールガール、バット引きの選手が着帽する。
  - 5, 捕手(控え捕手も含む)は、全日本軟式野球連盟公認のSGマーク付き及びスロートガード付きマスク、レガース、プロテクター、ヘルメット、ファールカップを使用すること。
  - 6, 使用球は、全日本軟式野球連盟公認球「J号球」とし、金属バットは「JSBB」マーク入りの公認のものを使用する。
  - 7, 投手の守備時以外、選手は手袋及びリストバンドを使用することができる。
- ~~(開会式)~~
- 1, ~~大会に出場する選手は、開会式に参加するものとする。~~

これに違反した場合は試合に出場することができない。ただし、学校行事、疾病など特別な理由がある場合に限り、軟式野球専門部長の許可を得れば試合に出場することができる。

(試合の集合・準備)

- 1, 第1試合のチームは、試合開始予定時刻の1時間前までに試合会場に到着し、球場責任者による受付を終了すること。その後の試合のチームも同様とする。
- 2, 試合中止の場合は、大会本部から連絡する。  
雨天等判断が困難な場合は、定められた時間までに試合会場に到着し、大会本部の決定に従うこと。  
試合実施の可否は、午前6時に決定する。(香取市大会)
- 3, メンバー表は必ず所定の用紙を使用し、第1試合は試合開始時刻の40分前、第2試合以降は前の試合の3回終了時に提出する。提出は、監督と主将が5部(香取市大会は4部)持参し、グラドルール等を確認すること。
- 4, ベンチは、抽選番号の若番が1塁側とし、先攻・後攻はメンバー表提出時にジャンケンにて決定する。
- 5, 試合前のシートノックは後攻チームから開始し、時間は5分以内とする。但し、前試合の遅れや天候不安等が生じた場合は、球場責任者の判断で中止して試合を開始する。
- 6, 第2試合以降のチームはグラウンド内に入ったらキャッチボール、トスバッティングをそれぞれ5分行いシートノックに備える。
- 7, ユニフォーム着用指導者は、試合開始前の練習の補助及び控え捕手の代わり(試合中も含めて)を務めることができる。
- 8, シートノックする監督又はコーチは安全を確認し、ボール渡しをする選手は、必ずヘルメットを着帽させなければならない。

(試合時間等)

- 1, この大会の試合は、トーナメント戦とし6回均等回で勝敗を決することとするが、タイムゲームを採用する。1試合90分を超えた時は新しいイニングに入らずその時点の得点をもって勝敗を決する。同点の場合は直ちに特別延長戦に入る。決勝戦も同様とする。
- 2, 6回終了時で同点の場合は、時間内であっても特別延長戦に入る。
- 3, 得点差によるコールドゲームは3回均等回終了後10点差以上及び4回以降均等回終了後7点差以上のとき適用する。
- 4, 日没、降雨によるコールドゲームの適用は、4回終了後適用する。4回終了前については再試合とし、後日の第1試合前に行う。日没、降雨での試合中止の判断は、球場責任者、球場責任審判員、球審・塁審が協議して決定する。
- 5, 監督が1試合に投手の所へ行ける回数は3回以内とする。特別延長戦に入った場合は、1イニングにつき各1回以内とする。捕手又は内野手が1試合に投手の所へ行ける回数は3回以内とし、特別延長戦に入った場合は、1イニングにつき各1回以内とする。野手(捕手も含む)が投手の所へ行った場合、そこへ監督が行けば双方1回として数える。逆の場合も同様とするが、投手交代の場合は監督のみ回数には含まない。
- 6, 攻撃側のタイムは1試合に3回以内とする。特別延長戦に入った場合は1イニングに各1回とする。
- 7, 投手の投球数は、1日70球とする。但し、打撃中に70球に達した場合は、その打者の打撃が完了するまでとする。(香取市大会)

- ① 同一投手の投球回数は1試合4イニング(特別延長も含めて12アウト)とする。

1日2試合ある場合は、2試合目については3イニング(9アウト)とする。(1日の合計7イニング21アウト。)

但し、大会日程上、対戦チームの一方が当日の1試合目、他方が2試合目となった場合、当該試合の投手の投球回数は両チームともに4イニング(12アウト)とする。

※高学年大会に於いては、投手は5・6年生とする。特例として4年生以下も認めるが、出来る限り5・6年生を起用すること。(4年生以下の投手の投球回数は、1試合3イニング9アウトとする。)

- ② 投手の変化球は禁止し、変化球に対してはボールを宣告する。再度繰り返した場合は、その投手は交代させる。(その試合での再登板も認めない。)

(試合)

- 1, 臨時代走(コーティシーランナー)は必要に応じて球審が認める。この代走は打順の最も遠い投手、捕手を除いた選手を充てる。
- 2, 審判員の判定への抗議はルールの適用の誤りの時のみ監督、又は当該選手がすることができる。
- 3, 選手交代は、必ず監督が球審に告げる。
- 4, メガホンはベンチに1個のみ持ち込むことができ、使用は監督のみとする。
- 5, 試合中、ベンチ入りの代表者、監督、コーチ、スコアラーは審判員の許可なしにグラウンド外に出ることはできない。
- 6, 試合中、ベンチ入りを許されている者は、電子機器等(携帯電話・パソコン・ビデオカメラ・カメラ・携帯マイク等)を持ち込むことができない。
- 7, 各チームの応援団及びベンチは、相手チームへの野次等を発することが出来ない。執拗な抗議や悪質な野次に対しては、大会本部、球場責任者、責任審判員、当該審判員から断固たる処置を命じる。

(特別延長戦)

- 1, 特別延長戦は、前回の継続打者が先頭打者となり、走者は、前回の最終打者が1塁走者、2塁の走者は、順次前の打者とし、無死1、2塁で1イニング行い、得点の多いチームを勝者とする。1イニングで勝敗の決定しない場合は更にもう1イニング行う。それでも勝敗が決定しない場合は、抽選とする。
- 2, 特別延長戦は、選手の交代等通常の試合が継続して進んでいることになるので、既に交代し退いた選手は再度出場できない。

【大会グラウンド規則】

- 1 大会球場がファールラインからスタンド、バックネット(柵まで)が少年野球区画基準の12mに満たない球場で、送球がスタンドまたはベンチに入った場合、球場のフェンスを越えるか・くぐるか・抜けた場合、バックストップの上部継ぎ目から上方の斜めに張ってある金網に乗った場合、観衆を保護している金網に挟まって止まった場合、特別に設けたボールデットゾーンに入った場合の5項目については、ボールデットとし、その送球が打球処理直後の内野手の最初のプレイに基づく悪送球であった場合は、投手の投球当時の各走者(打者走者も含む)の位置、その他の場合は、悪送球が野手の手を離れた時の各走者(打者走者も含む)の位置を基準として1個の塁しか与えないものとする。

\* 付記

大会グラウンド規則の1は、正規の送球では各走者(打者走者も含む)には2個の塁が与えられる規則となっている。但し、狭い球場等ではこのような悪送球がなされた場合には、守備側に対して一方的に不利になることから規定するものである。この場合、野手が球に触れたかどうかには関係なく適用する。[公認野球規則7.05(g)、アマチュア野球内規10適用]

- 2 試合終了後に両チームでグラウンド整備を行うこと。